



さとやま

3月に見られるいきもの



上の写真は、左が3月上旬、右が下旬のセンター付近の様子です。今年の2月は、1月に引き続き気温の低い状態が続きました。しかし3月になれば気温も上昇し、春らしくなってきます。

ビオトープや田んぼ付近の湿ったところで一面に咲く**ムラサキサギゴケ**、サギが翼を広げているような姿から名が付けました。里山エリア、湧き水が流れ出ているところには、里ではここでしか見られない**ヒメウス**が咲きます。

センター前に植えられている**サンシュユ**、中国や朝鮮半島から、江戸時代に薬用植物として導入されましたが、早春に咲く花として、日本では観賞用に栽培されています。

里山エリアの田んぼ付近では、ヘビイチゴに似た**ミツバツチグリ**の花が咲きます。ショウジョウバカマの小径やトンボの里の水辺では、**ショウジョウバカマ**の花が見られます。鼻を近づけるとよい香りがする**ニオイタチツボスミレ**は、中央広場上の道沿いから咲き始め、その後トンボの里や万灯山でも見つかります。

林の中では、雌雄異株の**アオキ**が、まず雄株の雄花から咲き始め、後から雌株も咲くようになります。暖かい日には**ルリタテハ**などの成虫越冬の蝶たちの姿も見られます。



ムラサキサギゴケ



ヒメウス



サンシュユ



ミツバツチグリ



ショウジョウバカマ



ニオイタチツボスミレ



アオキ



ルリタテハ

里の生き物紹介

ヒサカキ

この時期里を歩くと、漬物のような独特なおいが漂っていることがあります。付近を見回すと白く小さな花をたくさんつけた木が見つかります。



これは、ヒサカキというツバキ科の常緑小高木です。神仏に捧げるモッコク科のサカキ（榊）が手に入らない関東地方で、代用として使用されるため、「非榊」「姫榊」などと呼ばれたため名がついたと言われています。葉にギザギザがあるので見分けられます。サカキは6月頃に花が咲きます。また、よく仏花や墓花の後ろにつけて使われます。

防火性、耐潮性があるため、垣根として使われることがあります。

花は花弁が5枚、雌雄異株で、雄株の雄花は12~15本の雄しべが、雌株の雌花は雄花より花弁が開いて見え、3裂した雌しべとその根元の大きな子房が見えます。雄花の雌しべ、雌花の雌しべは退化するようですが、中には雄しべ雌しべが両方ある花をつける株もあります。



サカキ



雄株



雌株



中間型の花

写真のものは、雌しべが完全でなく先が開いていませんが、雌しべが完全で雄しべが花粉を出さない株や、どちらも完全な株もあります。

雌雄異株は、同じ個体の花粉が雌しべにつく自家受粉を避けることができます。しかし、付近に異性の株がない場合は不利になるため、両性のものも少しはあるとよいのかもしれませんが。

花のにおいは、人によって漬物のほかに、ラーメンのようだとか言われますが、中には悪臭と感じ、ガス臭いと表現する人もあります。このにおいは、チョウやハチなどが少ない早春に、ハエなどを集め花粉を運んでもらうのに役立っていると思われます。

花色は、白やクリーム色が多いですが、ピンクや緑色のものもあります。



その後、雄株は花が落ちてしましますが、雌株は子房が残って成長していき、晩秋には黒く熟します。実は、染料に使われることがあります。

実が熟す頃には、枝には来春の花芽がつき、年を越すと膨らんでいき、開花に備えます。

さとやまニュース

老朽化した3つの橋が業者を入れて新しくなりました。



風景に溶け込んだデザインで、足元を心配することなく安心して流れを渡ることができるようになりました。ぜひトンボの里まで足を伸ばしてみてください。

2月の行事紹介



炭は古くから日本人の生活に馴染んだ自然素材です。生活の中に幅広く取り入れていただけるようにと、3回[2/19・20、27]開催の講座「竹炭焼き」を神本晃氏と河野俊治氏の2人を講師に招いて開催しました。

当日は、曇りから雨の予報のため、竹を里山へ切りに行く者と金型の竹割器で竹を割いて下準備する者とに分かれて取りかかり、最後にみんなで手際よく窯へすき間なく詰めました。

翌日の朝は、窯に火入れを行い、一定の温度で7時間程かかるため交代で火の番を行い、午後からの火の番は講師で行いました。

最終日は、みんなで窯から竹炭を出してでき上がり観察し、反ったり、捻じれたり、歪んだりして自然素材ならではの面白みも多く、病みつきになりそうと喜んでいました。

4月の行事予定

2日(土)	初めてのタケノコ掘りⅠ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員
3日(日)	万灯山へお花見ウォーキングしよう	20名	AM9:30~15:00	高須 桂子
10日(日)	初めてのタケノコ掘りⅡ ※注1	30名	AM9:30~11:30	当園職員

「※注1」の講座は3月12日から受付しますが、両日への申込みはできません。

- ◎ 参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその家族までとします。なお、定員が6名以下の場合開講しません。
- ◎ 参加申込者は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学者扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◎ 当日の天候や新型コロナウイルス感染の拡大防止のため、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◎ 原則、参加費は無料ですが、各講座により材料費は実費を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◎ 各講座の詳細な内容については、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課